

『在る』についての考察

コメント：一人ではヨラヨラしてしまうので、人や物と絡まりながら日々存在しているようです。今日は、あなたの出す音やひらめきや温もりも絡めながら、土の上に居てみましょう。

振付：藤井香／出演：江積志織、海保文江、佐々木春呼、松元日奈子

11月22日(土)

13:30-14:00

彩のくに創作舞踊団主宰。舞踊団公演「平気に踊る」シリーズを展開する他、埼玉県舞踊協会主催のアウトリーチプロジェクト「コレオグラファーの目」、SMFにて建築・文学・美術・電子音楽・コスチューム等との協働ワークショップやパフォーマンスの企画運営に携わる。



柳井 嗣雄（美術家、和紙造形）プロフィール

1953 年 山口県生まれ。1978-80 年 S・W・ヘイターに師事（アトリエ17、パリ）。1985 年より紙の作品制作、ペーパーワークを開始。物の在り様を、風化して消えてゆく物質的存在と、記憶やイメージとして現れる精神的存在とし、「物質と生命の記憶」をテーマにしたインスタレーション作品を特長とする。

「Dialogue- 1200mの藁縄」

藁縄を切断して結ぶという行為を含めたインスタレーション。木の下に垂れ下がった無数の藁縄。人間の目線の高さに結び目がある。自由参加のWS「切って結ぶ」を通して、モノローグからダイアログへの言葉を介さない共感を試行する。世界の分断を超えて、共に生きるためのまなざし、対話の場として。

ワークショップ「切って結ぶ」

14:00~15:00

1200mの藁縄を切って木の枝から地面まで大量に垂らす。任意の2本を選び自分の目線の高さで結びつける。個々のまなざしが木の下で共振し始める。